

雪印が
お奨めする
育成選抜品種の解説

ピーマン
(美 鈴)

(一) 育成の目的と経過

ハリス・ジャイアント種をもとにして馴化された極早生種が北海道に戦前からあった。戦後カリフォルニア・ワンダー等の大果系の導入種が一時ははんらんしたけれども、いずれも晩生種で収量少なく、極早生



ピーマン (美鈴) の着果状況

品 種 名	草 丈 (cm)	葉 長 (cm)	葉 幅 (cm)	果 数 (個)	果 重 (g)	高 (cm)	幅 (cm)	肉 厚 (mm)	初期 量割 (%)	全 割 (%)
緑 王	58	35	67	84	57	85	59	35	100	100
金 剛	74	32	57	56	57	79	56	33	8	3
秀 剛	68	26	59	44	68	71	61	29	40	7
ニニウワンダー	64	38	59	92	64	96	64	39	5	2
緑 光	70	37	57	82	53	64	66	38	2	1
美 鈴	69	20	56	37	53	77	67	32	15	1

(二) 特性概要

ピーマン品種試作成績 (昭和三十六年 上野幌育種場 一〇株当り)

の選抜に切かえる。)と、更に果の色沢が濃くて稜の浅いことを目標に選抜を繰返して来た。昭和三十六年にまだ一、二の点で満足できない点も残っているが、ほぼ所期の目的を達したので、美國改良ピーマン美鈴と命名して発表したものである。

(三) 栽培上の注意

本種は第一果の着生節位低く、樹が大きくなりないうちに着果を見る。第一果は肥大する迄おくと樹勢をおさえることになるから早目に収穫する。本種はハウス、トンネル栽培に適し、草丈低く、横繁性でないから特にハウス内でトマトなどの入らない隅を利用しての栽培に好適している。

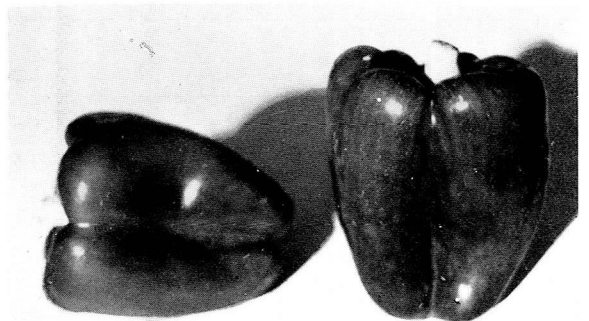
なお本種の栽培に当っては初期収量あげるために堆肥の増施が望ましく、出来れば作条に施用することも良い。一般露地栽培にても支柱を立て、敷設を行えば一層

本種の特性を發揮し早期から晩秋迄収穫を休みなく続けることができる。

の在来種に注目されるようになった。在来種は摘いがあまり良くなく、横繁性で草勢弱く、あまり収量があがらなかった。そこで極早性を生かし、品種の純度をたかめ摘いをよくすること、草勢を強めるため立性にする(立性になるに従い極早生性、着果性の劣るのが目立ったので中間タイプ

(三) 栽培上の注意

草勢は育成当時よりかなり強くなっており、盛夏季の高温、乾燥にもバテることなく、早生性はむしろたかまわっている。果は比較的良く摘い長めになって来ている。果の長めを選抜してきたため多少尻の形のくずれるものも見られるが緑玉などに現われる程度のものである。果肉は早生種なのでややうすが他の早生種におとらない。一個平均六〇gぐらいとなる極早生種で、早期収量の多いことは他にその例を見ない。



収穫された美鈴ピーマン